懺悔(さんげ)と受戒(じゅかい)

―実相(じっそう)を染汚(ぜんな)せず、孝道(こうどう)に調(ととの)え歩(あゆ)む―　(四版)

仏祖(ぶっそ)の開(ひら)いた済(すく)い受(う)く
大(おお)きな慈門(じもん)の懺悔(さんげ)あり
哀(あわ)れみ我(われ)に分布(ぶんぷ)せり
まことを只管(しかん)に行(ぎょう)じゆく
懺悔(さんげ)に清浄(しょうじょう)会得(えとく)せん

まさに仏戒(ぶっかい)受(う)けるべし
孝(こう)を名付(なづ)けて戒(かい)となす
七世(しちせ)の父母(ぶも)に生(しょう)を享(う)け
衆生(しゅじょう)の縁(えん)に生(い)かさるも
社会(しゃかい)の安寧(あんねい)有(あ)り難(がた)し
仏(ほとけ)の教(おし)えに皆(みな)のため
真理(しんり)の一員(いちいん)つつしみて
向上(こうじょう)めざすの同志(どうし)たり
慈悲(じひ)の恩沢(おんたく)感(かん)じなば
応(こた)える心(こころ)に戒(かい)を持(じ)す

小罪無量(しょうざいむりょう)
実相懺悔(じっそうさんげ)
不染汚懺悔(ふぜんなさんげ)

父母(ふぼ)の恩(おん)
衆生(しゅじょう)の恩(おん)
国王(こくおう)の恩(おん)
仏宝(ぶっぽう)の恩(おん)
法宝(ほうぼう)の恩(おん)
僧宝(そうぼう)の恩(おん)

宮城県大崎市　瑞川寺住職　木村謙文